

四半期報告書

(第67期第3四半期)

自 平成20年10月1日

至 平成20年12月31日

株式会社コーセー

東京都中央区日本橋三丁目6番2号

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

| | |
|---------------|---|
| 1 主要な経営指標等の推移 | 1 |
| 2 事業の内容 | 2 |
| 3 関係会社の状況 | 2 |
| 4 従業員の状況 | 2 |

第2 事業の状況

| | |
|-----------------|---|
| 1 生産、受注及び販売の状況 | 3 |
| 2 経営上の重要な契約等 | 3 |
| 3 財政状態及び経営成績の分析 | 4 |

第3 設備の状況

第4 提出会社の状況

1 株式等の状況

| | |
|---------------------|---|
| (1) 株式の総数等 | 7 |
| (2) 新株予約権等の状況 | 7 |
| (3) ライツプランの内容 | 7 |
| (4) 発行済株式総数、資本金等の推移 | 7 |
| (5) 大株主の状況 | 7 |
| (6) 議決権の状況 | 8 |

2 株価の推移

3 役員の状況

第5 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

| | |
|-----------------------|----|
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 10 |
| (2) 四半期連結損益計算書 | 12 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 14 |

2 その他

第二部 提出会社の保証会社等の情報

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

| | |
|------------|-------------------------------------|
| 【提出書類】 | 四半期報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の7第1項 |
| 【提出先】 | 関東財務局長 |
| 【提出日】 | 平成21年2月13日 |
| 【四半期会計期間】 | 第67期第3四半期（自平成20年10月1日 至平成20年12月31日） |
| 【会社名】 | 株式会社コーセー |
| 【英訳名】 | KOSE Corporation |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 小林 一俊 |
| 【本店の所在の場所】 | 東京都中央区日本橋三丁目6番2号 |
| 【電話番号】 | 03（3273）1511（代表） |
| 【事務連絡者氏名】 | 経理部長 石倉 伸治 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 東京都中央区日本橋三丁目6番2号 |
| 【電話番号】 | 03（3273）1511（代表） |
| 【事務連絡者氏名】 | 経理部長 石倉 伸治 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | | 第67期 第3四半期連結 累計期間 | 第67期 第3四半期連結 会計期間 | 第66期 |
|------------------------------|-----|--------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 会計期間 | | 自 平成20年 4月1日 至 平成20年 12月31日 | 自 平成20年 10月1日 至 平成20年 12月31日 | 自 平成19年 4月1日 至 平成20年 3月31日 |
| 売上高 | 百万円 | 135,448 | 46,996 | 180,222 |
| 経常利益 | 百万円 | 9,527 | 4,655 | 14,854 |
| 四半期（当期）純利益 | 百万円 | 3,511 | 1,928 | 6,900 |
| 純資産額 | 百万円 | — | 104,134 | 105,048 |
| 総資産額 | 百万円 | — | 167,457 | 172,128 |
| 1株当たり純資産額 | 円 | — | 1,693.94 | 1,693.55 |
| 1株当たり四半期（当期） 純利益金額 | 円 | 60.34 | 33.22 | 115.50 |
| 潜在株式調整後1株当たり 四半期（当期）純利益金額 | 円 | — | — | — |
| 自己資本比率 | % | — | 58.7 | 58.1 |
| 営業活動による キャッシュ・フロー | 百万円 | 3,697 | — | 14,817 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | 百万円 | 3,677 | — | △5,331 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | 百万円 | △5,178 | — | △6,800 |
| 現金及び現金同等物の 四半期末（期末）残高 | 百万円 | — | 36,108 | 34,093 |
| 従業員数 | 人 | — | 5,496 | 5,079 |

（注）1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3 【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成20年12月31日現在

| | |
|---------|--------------|
| 従業員数（人） | 5,496（7,416） |
|---------|--------------|

（注）従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は（ ）内に当第3四半期連結会計期間の平均人数を外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成20年12月31日現在

| | |
|---------|--------------|
| 従業員数（人） | 2,389（2,662） |
|---------|--------------|

（注）1. 従業員数は就業人員（当社から社外への出向者を除いております。）であり、臨時雇用者数は（ ）内に当第3四半期会計期間の平均人数を外数で記載しております。

2. 従業員数には、当社所属の美容スタッフ1,515人が含まれております。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| 事業の種類別セグメントの名称 | 当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日) |
|----------------|---|
| | 金額(百万円) |
| 化粧品事業 | 30,621 |
| コスメタリー事業 | 7,027 |
| その他の事業 | 462 |
| 合計 | 38,111 |

(注) 1. 金額は製造会社販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

重要な受注生産を行っておりませんので記載を省略しております。

(3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| 事業の種類別セグメントの名称 | 当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日) |
|----------------|---|
| | 金額(百万円) |
| 化粧品事業 | 35,477 |
| コスメタリー事業 | 11,095 |
| その他の事業 | 424 |
| 合計 | 46,996 |

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態及び経営成績の分析】

当社グループに関する財政状態及び経営成績の分析・検討内容は下記のとおりであります。
なお、文中における将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

①当第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績につきましては、景況感の悪化に伴い個人消費が弱まったことや円高の影響もあり、化粧品事業、コスメタリー事業、その他の事業のいずれも前年を下回り、売上高は135,448百万円となりました。

利益につきましては、売上原価率の上昇や本社移転関連費用等の発生もあり、営業利益は9,764百万円、経常利益は9,527百万円、四半期純利益は3,511百万円となりました。

イ 化粧品事業

化粧品事業につきましては、国内では、化粧品専門店や百貨店で扱う高級品の育成に努めたほか、「雪肌精 シュープレム」の発売や「インフィニティ」取扱店舗の拡大など、カウンセリング販売に力を注ぎました。海外においては、既存ブランドの拡大に取り組んだほか、台湾に「ジルスチュアート」を導入するなど、ブランド展開の強化を図りました。

これらの結果、当事業の売上高は100,351百万円、営業利益は11,197百万円となりました。

ロ コスメタリー事業

コスメタリー事業につきましては、主力となるブランドのリニューアルやアイテムの充実を行ったほか、効果的な広告宣伝・販売促進活動を実施してブランドの活性化と顧客の拡大に努めました。一方で、前年同期における新製品投入の反動や、取引店改革に伴う影響もありました。

その結果、当事業の売上高は33,683百万円、営業利益は515百万円となりました。

ハ その他の事業

その他の事業につきましては、前期に子会社2社を売却したこともあり、売上高は1,413百万円、営業利益は258百万円となりました。

②当第3四半期連結会計期間（自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日）

当第3四半期連結会計期間における当社グループの業績につきましては、化粧品事業、コスメタリー事業、その他の事業のいずれも前年を下回り、売上高は46,996百万円となりました。

利益につきましては、営業利益5,160百万円、経常利益4,655百万円、四半期純利益1,928百万円となりました。

このうち、化粧品事業は売上高35,477百万円、営業利益5,096百万円、コスメタリー事業は売上高11,095百万円、営業利益774百万円、その他の事業は売上高424百万円、営業利益70百万円となりました。

(2) 資金の状況及び資金の見通し

①資金の状況

当第3四半期連結会計期間末の流動比率は264.5%、当座比率は186.6%であり、前連結会計年度末に比べそれぞれ14.2ポイントの増加、5.5ポイントの増加となりました。主な理由は下記のとおりであります。

資産は、前連結会計年度末に比べ4,671百万円の減少となりました。現金及び預金の増加2,233百万円、有価証券の減少5,114百万円、商品及び製品の増加356百万円、有形固定資産の増加1,015百万円、無形固定資産の減少676百万円、及び投資有価証券の減少4,929百万円等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ3,757百万円の減少となりました。支払手形及び買掛金の増加2,698百万円、未払法人税等の減少2,732百万円、退職給付引当金の減少1,699百万円等によるものであります。

なお、有利子負債残高は4,576百万円、デット・エクイティ・レシオは0.05倍となりました。

②資金の見通し

当社グループの資金調達の状況につきましては、事業継続に必要と考える資金は確保していると認識しております。

今後の資金使途につきましては、内部留保により財務体質の強化を図る一方、設備投資やM&Aに取り組むことで将来のキャッシュ・フローの創出につなげ、資本効率の向上を図ってまいります。また、一時的な余剰資金の運用につきましても、安全性を第一に考慮し運用商品の選定を行っております。

(3) キャッシュ・フロー

当第3四半期連結会計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物の期末残高は、36,108百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、12百万円の収入となりました。主な要因は税金等調整前四半期純利益4,315百万円、非資金費用である減価償却費1,468百万円、固定資産処分損145百万円、投資有価証券評価損194百万円、為替差損336百万円、退職給付引当金の減少569百万円、売上債権の増加1,388百万円、たな卸資産の増加602百万円、その他の資産の減少132百万円及びその他の負債の減少1,680百万円等であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、2,014百万円の収入となりました。主な要因は有形固定資産の取得による支出1,466百万円、無形固定資産の取得による支出69百万円、有価証券の売買による純収入3,589百万円、投資その他の資産の減少152百万円等であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、1,497百万円の支出となりました。主な要因は借入金の純減299百万円及び配当金の支払額1,160百万円等であります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結会計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、1,041百万円であります。

なお、当第3四半期連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

